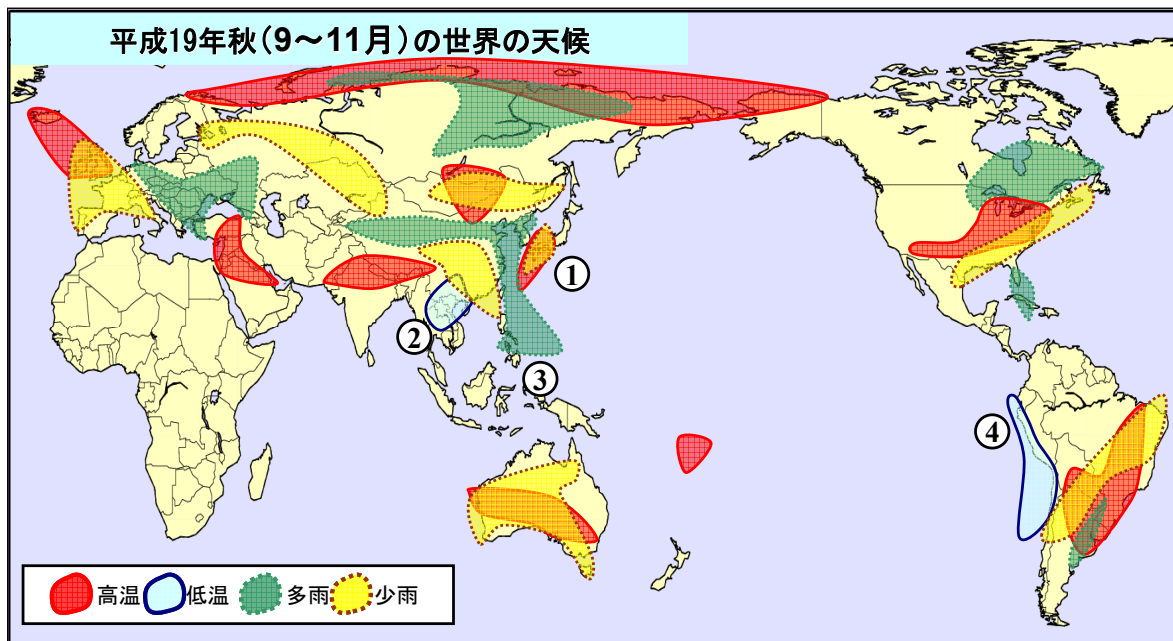


平成 19 年秋（9～11 月）の世界の天候の特徴

ユーラシア大陸北極海沿岸からアラスカ北部、モンゴル東部、西日本周辺、米国東部、ブラジル東部からアルゼンチン北部、オーストラリア南部で高温となり、中国南部からタイ北部、南アメリカ大陸の太平洋沿岸域で低温となった。中国西部から黄海を経てフィリピン周辺、黒海北岸域からドイツで多雨となり、西日本周辺、ヨーロッパ西部、米国東部、ブラジル東部からアルゼンチン北部、北東部を除くオーストラリアで少雨となった（図 1 参照）。

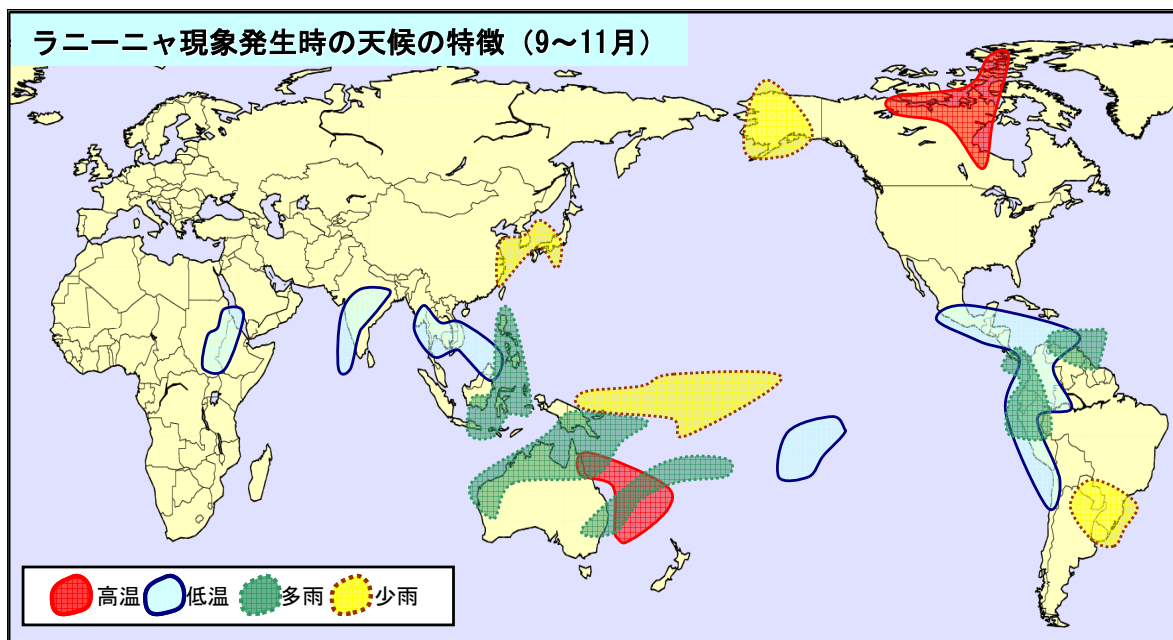
今回のラニーニャ現象に関連する可能性のある天候は、①西日本周辺の少雨、②タイ北部の低温、③フィリピン周辺の多雨、④南米太平洋沿岸域の低温である。これらの天候は、過去のラニーニャ現象時にも発生しており、この秋の熱帯域の大気・海洋の状況に関連して発生したものと考えられる。



気象庁 地球環境・海洋部

図1 平成19年秋(9～11月)の世界の天候の特徴

3か月平均気温・3か月降水量で高温・低温・多雨・少雨となった地域を示す。丸数字はラニーニャ現象に関連する可能性のある天候を示す。なお、高温・低温は10年に1回程度、多雨・少雨は5年に1回程度以下の現象がある程度の範囲にまとまって現れた主な領域を示す。



気象庁 地球環境・海洋部

図2 ラニーニャ現象発生時の秋(9～11月)の天候の特徴

1949～2004年におけるラニーニャ現象発生年とエルニーニョ現象・ラニーニャ現象ともに発生していない年とで比較し、統計的な検定の結果、危険率10%未満で有意な差のあった地域をまとめて分布図に示す。